

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：6月英国労働統計

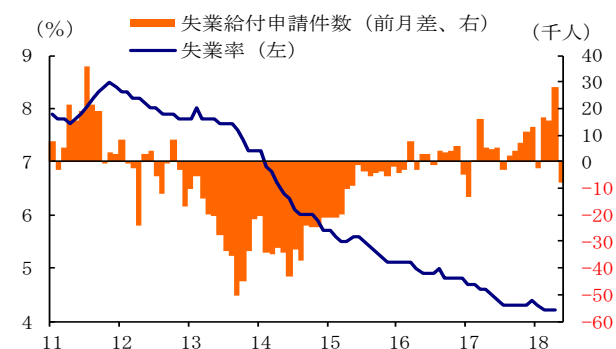
発表日：2018年6月12日(火)

～労働需給逼迫よりも4-6月期の出足不調に注目～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 主席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

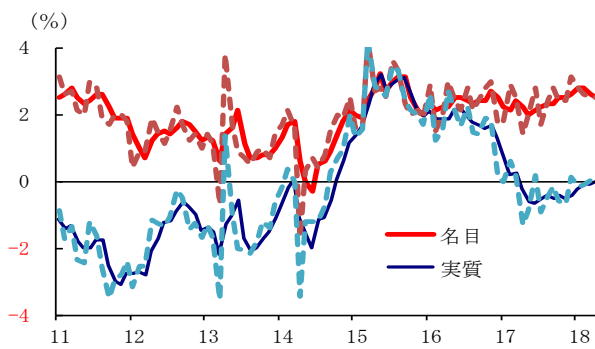
- 労働力調査ベースの英国の失業率は、4月から遡って3ヶ月の移動平均値で4.2%と、1975年以来の最低水準を更新した2月から3ヶ月連続で横這い。就業者数が3ヶ月前の3ヶ月移動平均値から14.6万人増加と力強い増勢を維持。就業率は過去最高を記録。単月の失業率は、新たに計算に加わった4月値が4.17%と、同一サンプルの1月(4.26%)から低下。来月の失業率(3ヶ月移動平均)が一段と低下するには、5月値が3.89%未満(同一サンプルは4.02%)となる必要があり、さすがに難しい。
- 全産業の週当たり賃金(賞与を含む)は、4月から遡って3ヶ月の移動平均で前年比+2.5%と、1・2月に記録した同+2.8%から減速。賞与を除く賃金も、前月：同+2.9%→今月：同+2.8%と前月からやや減速したものの、こちらは今次サイクルのピーク付近で推移。ピークアウトした物価上昇に賃金上昇が追いついてきたことで、実質賃金の落ち込みによりやく歯止めが掛かってきた。
- 5月の金融政策委員会(MPC)でBOEは追加利上げを見送ったが、失業率の一段の低下と賃金上昇(やや減速したとは言え)を確認した今月の労働統計は、8月の利上げ再考の判断材料となろう。ただ、昨日発表の4月の製造業生産が前月比▲1.4%と大幅な落ち込みを記録。1-3月期の景気減速が天候不順などによる一時的な落ち込みと判断していたBOEにとって、4-6月期の低調な出足は予想外。追加利上げ決定には、4-6月期の景気指標のリバウンドと賃金上昇傾向の継続が必要となりそうだ。

■英国：失業率と失業給付申請件数



出所：英国統計局

■英国：週当たり賃金・賞与(全産業、前年比)



注：実線は3ヶ月移動平均値

出所：英国統計局

■英国の失業給付・平均賃金

	2017						2018				
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
失業率(失業給付、%)	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.3	2.3	2.4	2.4	2.5	2.5
失業給付件数(前月差、千人)	-3.1	2.1	4.3	7.1	11.1	12.9	-2.3	16.6	15.7	28.2	-7.7
失業率(労働力調査、%)	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.2	4.2	4.2	—
(単月の失業率、%)	4.38	4.24	4.13	4.43	4.29	4.39	4.26	4.02	4.36	4.17	—
就業者数(前月差、千人)	182	95	-14	-56	102	88	168	55	197	146	—
週当たり賃金(産業計、前年比、%)	2.2	2.3	2.3	2.5	2.5	2.6	2.8	2.8	2.6	2.5	—
賃金	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.5	2.6	2.8	2.9	2.8	—
ボーナス	1.7	4.7	5.0	8.5	8.1	5.2	6.1	4.6	1.5	0.1	—

注：労働力調査基準の失業率、就業者数、週当たり賃金は当月で終わる3ヶ月移動平均 出所：英国統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。